

# 絶滅危惧種ニホンアカガエルの 新しい生息地—大柏川第一調節池緑地

佐野 郷 美

## 1, ニホンアカガエルとは？

ニホンアカガエル *Rana japonica* Gunther は、北海道を除く日本列島と中国大陸に分布するカエルで、成体は平地から丘陵地にかけての森林、池沼、水田周辺、湿地等に生息する(前田・松井 1989)。千葉県では生息環境が急速に失われて激減し、「千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッド・データ・ブック—動物編」では、カテゴリー A[最重要保護生物]に指定されている(千葉県環境部自然保護課 2000)。繁殖期は1月末から3月末で、産卵は主として台地際の湿田(冬季にも水を湛えている水田)や浅い池において、温かな雨の晩に行われる。体長は40~70mm程度で普通はメスのほうが少し大きく、産卵期にはメスの体、特に腹から足にかけて鮮やかな橙色になる(口絵5)。

## 2, 市内のニホンアカガエルの現状

市川市はかつて台地から低地を下る斜面には雑木林が広がり、低地には広大な水田があった(市立市川自然博物館 1989、市川市水と緑の計画課 2001)ので、特に台地に挟まれた幅の狭い谷津田はニホンアカガエルの大産卵地であった。筆者が1959年に東京から市川市北国分に転居してきてから、小学校を卒業する1960年代後半までは自宅周辺の里山が私を含む当時のガキ大将集団の遊び場であったが、現在東京外郭環状道路が計画されているどうめき谷津(堀之内貝塚公園と小塚山公園に挟まれた低地)が典型的な谷津田で、2~3月におびただしい数のニホンアカガエルの卵塊(口絵6)があったことを鮮明に覚えている(もちろん当時はただ「アカガエル」と呼んでいたが、後にそれがニホンアカガエルという和名であることがわかった)。

しかし、その後の急速な住宅開発により、北国分はもとより市内各地の水田地帯は次々と埋め立てられ、それに隣接する草原や林も失われ、ニホンアカガエルの産卵場所と生息地は急速に狭められていった。筆者の調査によれば1987年には市内で2,457個の卵塊が、主として国分、須和田、北方、大野、大町、柏井、奉免等の湿田で確認できたが、3年後の1990年には卵塊数は1,285個(1987年の52.3%)に激